

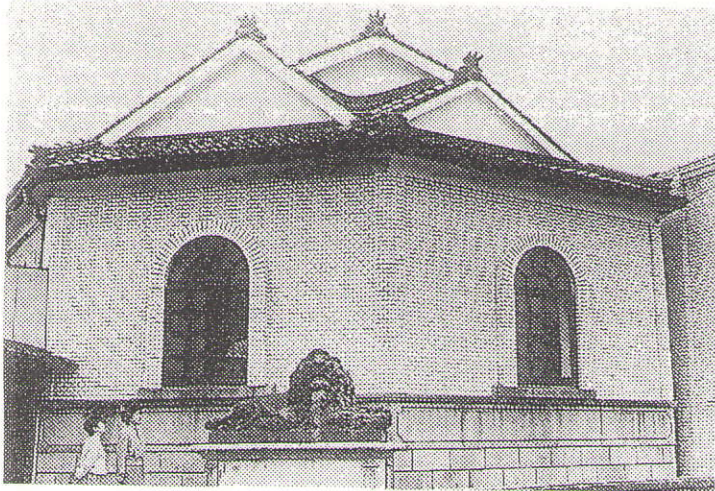
新潟たてもの風土記

直江津港を臨む船見公園 物が往時の面影を伝えていく。近くの旧回船問屋街。かつては問屋に交じって海産物を扱う店が軒を並べ、人と物との往来で活気に満ちていたという。現在は倉庫や住宅が立ち並び静かな地区で、独特な変則五角形の建

物が一の店舗は当初国鉄直江津駅近くに建てられた。しかし、同銀行は不況に

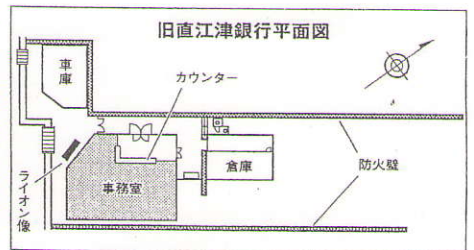
旧直江津銀行

上越

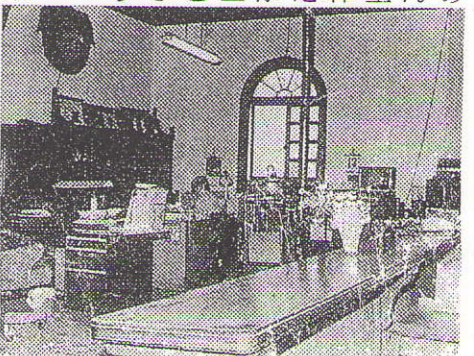


市内最古の洋風建築でもある旧直江津銀行

明治の面影伝える五角形



「回酒店」の社屋とした。当時の高橋氏の羽振りのよさを象徴するのが、社屋前に「デン」と構えるライオン像。魔よけと社のシンボルとして移築と同時に据えられた。東京・銀座の三越デパートのものまねたといわれている。近所の人たちにとっては「生まれた時から見て育っただけに愛着を感ずる」という地区のシンボルになっている。



明治の銀行内部そのままの事務室

より一九二五年(大正四)に解散。残された建物を、当時、海運業で飛ぶ鳥を落員二人が常時詰めている。築百年を超える現在も高製のカウンター、さびた大達回酒店の事業所として職金庫、古いドイツ製の天井扇風機、古時計などが残されている。

銀行当時の木製のライオン像、さびた大達回酒店の事業所として職金庫、古いドイツ製の天井扇風機、古時計などが残されている。

愛着感じるライオン像

映画ロケにも度々登場

とす勢いだった故・高橋達太氏が買い取り、約一キロ離れた現在地に移して「高達」

建物上には三つの小屋根があり、白タイルの外壁、凹形の窓が美しい。同店取

れ、明治・大正期のロマンを伝える。映画のロケにも度々使われてきた。

しかし、居住性について

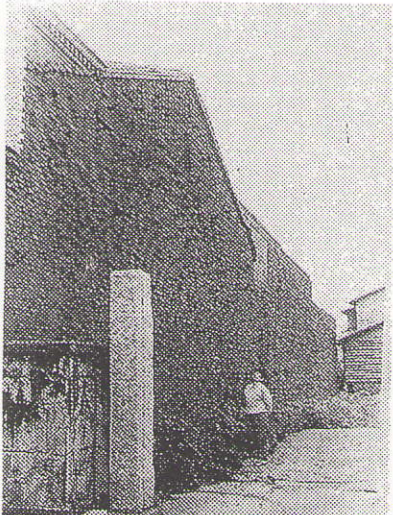
(豊島寛次)

建物の調査、研究が続いている。県立高田工業高校の広田敏郎教諭は、「高達回酒店のお陰で市内最古の洋風建築が残った。ぜひ、永久保存して欲しい」と話している。

◇

上越市中央三の七の三一。JR直江津駅から北に約一・二キロ。駅から海に向かい、徒歩で約十五分。

建物を守ってきた赤レンガ防火壁



シンボルのライオン像

